

ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名 和歌山ユネスコ協会

【ESD ユネスコ世界会議の成果】

本セミナーは、来年6月6日～7日に和歌山市で開催予定の「第71回日本ユネスコ運動全国大会 in 和歌山」のプレイベントとしても開催された。

ミナーの冒頭、和歌山県世界遺産マスターの小野田氏から和歌山県の世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について講演が行われ、熊野古道の概要、世界遺産になるまでの経緯、登録後の現状についてお話しされた。続いて、日本マチュピチュ協会副会長の野内セサル良郎氏から6月に登録されたばかりの世界遺産「カパック・ニャン（古代インカ語で偉大なる道）」のご紹介をいただいた。

その後、上記の2氏に加えて芝本会長の3名をパネリストとしてパネルディスカッションが行われた。「世界遺産を活用したESD」、「世界遺産の保全のための課題」、「今後の展望」等について、意見交換が行われた。最後に、野内氏によるケーナ（南米発祥の縦笛）の演奏が行われ、セミナーは終了した。

本セミナーには50名余りの参加があり、参加者からは、「熊野古道やカパック・ニャンをぜひ歩いてみたい」、「世界遺産になってからの取り組みが重要であることがわかった」等の感想が寄せられた。また、来年和歌山市で開催されるユネスコ運動全国大会を期待する意見も多く、多くの参加者に全国大会を周知いただき、プレイベントとしての効果が十分に感じられた。

【今後の展望】

日本マチュピチュ協会副会長の野内セサル良郎氏のご講演の最後に、お互いの世界遺産を通じて日本と姉妹都市交流を行いたいとの提案がなされた。すぐに実現できる可能性は低いですが、できる限りの協力をしていきたい。

また、今回のセミナーを通じて来場者の皆様をはじめ多くの方々をつながりを得ることができた。皆様から寄せられたご提言をもとに、来年開催予定の「第71回日本ユネスコ運動全国大会 in 和歌山」の更に充実したものにしたい。